

平成30年度地震・津波防災訓練 (内閣府・高浜町)

実施報告書 (概要版)

福井県高浜町について

高浜町は、福井県の最西端に位置し、京都府舞鶴市と境し、日本海若狭湾国定公園に面した海と山に囲まれた町です。アジア初の国際環境認証ブルーフラッグを取得した「若狭和田ビーチ」など、海水浴場としても賑わっています。

高浜町では「暮らしたい、働きたい、訪れたいまち…高浜町」を5つの基本目標とし、人口減少を踏まえた防災の取組を進めております。

高浜町では、地域的な要因から台風による風水害や土砂災害等への対策、また、原子力発電所の立地から、住民の一時集合施設となる公共施設や病院、老人施設等の要配慮施設、災害対策拠点となる役場や消防庁舎について、放射性物質が侵入しないよう放射線防護施設に改修するなど対策を講じております。

そのため、毎年、地震津波訓練はもとより、原子力事故を想定した原子力防災訓練を始め、水防訓練や各自治区の避難訓練、区内の危険箇所を点検把握する町歩き研修など、自治区域にあった防災対策、訓練等を実施しております。



訓練概要

- 訓練想定：11月5日（月）9：45、若狭湾沖にある「若狭海丘列付近断層」を震源とするM7.6の地震が発生。高浜町内では最大震度5弱を観測。地震発生直後より大津波警報が発表され、町の沿岸地域では約40分後に、最大津波高5.9mの大津波が襲来する見込みである。高浜町は地震発生後直ちに災害対策本部を設置し、沿岸部の住民等に対して、防災行政無線等により津波からの避難を呼びかけた。
- 実施日時：平成30年11月5日（月）09：45～12：30
- 主 催：高浜町、内閣府（共催：福井県）
- 参加者数：約1,200名
- 参加機関：区長会、自主防災会、老人クラブ連合会、保育所、小・中学校、警察、消防、消防団、気象台、赤十字奉仕団、西日本旅客鉄道(株)、若狭高浜病院、NTT西日本(株)、(株)NTTドコモ、KDDI(株)、福井県生協

訓練の評価

訓練当日は、天候に恵まれ、小学生、中学生、保育所の幼児などを含め、地域住民、関係機関及び協定締結企業等を合わせ約1,200名が、終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後、住民、小・中学生及び町職員に対してアンケートを実施し、今後の防災対策や防災訓練の参考となるよう「課題と対策案」を整理した。

この結果、「避難時のルートや行動等を経験できて良かった」、「行動できるようにするには訓練することが大切。避難所まで歩くことは重要」、「これからも定期的に地震・津波訓練を実施すべき」等の意見も出された。

◎津波に対する避難先や避難経路を知らない人が約65%（165人以上）いたが、自らの命を自ら守るために、避難先・避難経路を知ることは非常に重要であり、その自覚を促すためにも、引き続き自治会と学校等が連携した避難訓練を実施していく必要がある。

◎家族との連絡手段を決めていない人が全体の半数以上いたが、事前に複数の連絡方法を家族できちんと話し合っておくとともに、避難先等もルールとして決定し、認識を統一しておくことが必要である。

◎学校では、シェイクアウトの際に机の脚を両手で斜めに固定するよう指導されていることから、町としても「机の下に入っているだけでは、揺れによって机が倒れてしまう恐れもあり、机の脚を両手で斜めに固定する要領を引き続き徹底していく」ということを、訓練等を通じて地域に普及していく必要がある。

◎「もう少し危機感、リアリティを感じられるような訓練に改善した方がよい」との意見もあったことから、毎年実施している訓練と各自主防災会が実施している訓練をコラボして、大勢が方々が参加でき、また危機感等を醸成できるような訓練を考えていく必要がある。

当日の訓練内容

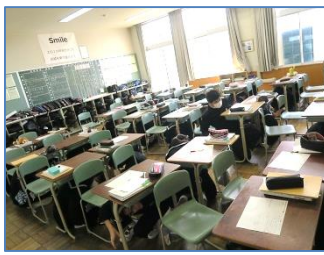
09:45～ シェイクアウト訓練

町全域を対象に自らの命は自ら守るという「自助」の取組みに重点を置き、地域住民、小・中学生、町職員等が、それぞれの場所で一斉に安全確保を行うシェイクアウト訓練を実施した。

▼高浜小学校



▼高浜中学校



▼高浜保育所



09:48～10:25 津波避難訓練

高浜地区の小・中学生、保育園児及び地域住民は、各々の場所から、垂直避難又は高台及び津波避難ビルへの避難を実施した。また、ＪＲ小浜線の普通列車が緊急停止し、警察・消防が子供らを救助し、高台に避難誘導した。

▼地域住民



▼高浜小学校



▼ＪＲ小浜線避難訓練



10:00～11:00 防災関係機関・協定締結企業等による展示訓練

警察・消防の車両や起震車の展示・体験、並びに高浜町、防災関係機関・協定締結企業等による防災用品及び防災パネル等の展示を実施した。

▼起震車体験



▼関係機関車両展示



▼防災パネル等展示



11:00～11:40 防災講習会、11:50～12:30 物資配給訓練

中央体育館において福井地方気象台による防災講習会を実施した。講習会終了後、救援物資に見立てた啓発用防災用品の配給、炊き出した非常食の試食等、物資配給訓練を実施した。

▼福井地方気象台による防災講習会



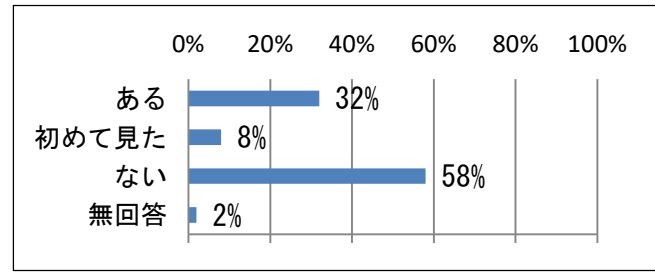
▼物資配給訓練



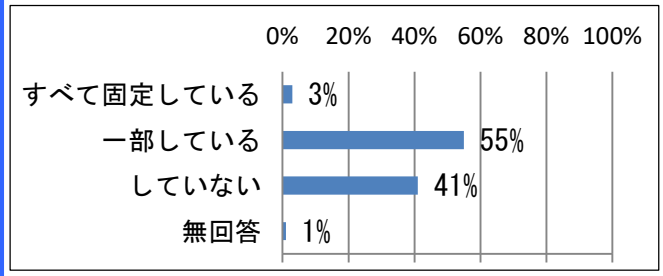
アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。

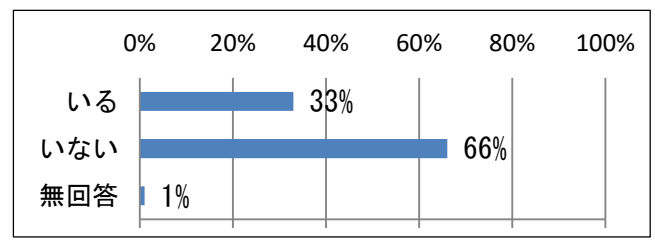
高浜町が作成したハザードマップを見たことがありますか。（回答数＝288名）



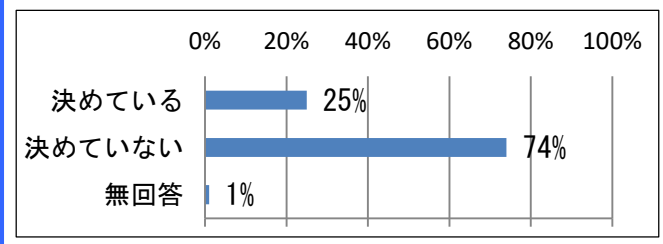
ご自宅の家具は固定してありますか。（回答数＝288名）



あなたの周辺には、避難行動要支援者がいますか。（回答数＝288名）



災害時に一緒にいない家族との連絡手段を決めていますか。（回答数＝288名）



【自由意見】

- 情報を得るために、しっかり繋がるWi-Fiが必要。また、避難方法、経路等の案内、情報がほしい。
- 訓練は家族で参加しやすい休日が良いかもしれない。今回は主人がお休みだったので、一緒に考えられて良かった。
- 知りたいのは「一般的な知識」ではなく、「どんな行動をとれば良いか」1人、家族で家にいる時「自分で判断する力」がつく内容にしてほしい。

【反映事項】

- 今後の訓練では、訓練を自らの判断等を確認する機会と捉え、訓練で何が出来て・出来なかったかを認識できることも重要。そのため、「どのタイミングで家の外に避難すべきか」「車か徒歩か」「2階か1階か」「避難経路が通れなかった場合の別ルート」「避難場所ではどんな支援があり、どのような生活を送ることになるか」「津波の心配がなければ遠くの高台より近くの図書館でも良いか」「どちらが安全で物資が届きやすいのか」等をケーススタディで確認する内容（講座等）を取り入れることも必要。
- 今回の訓練PVなどを、今後の訓練説明や町の訓練の啓発として活用し、啓発するとともに、より参加者を増やすうえでも休日に訓練を実施する。
- 毎回これほどの規模は難しいが、毎年、地域、自治区を限定しながら、その地域、場所にあった地震・津波避難訓練を実施する。

